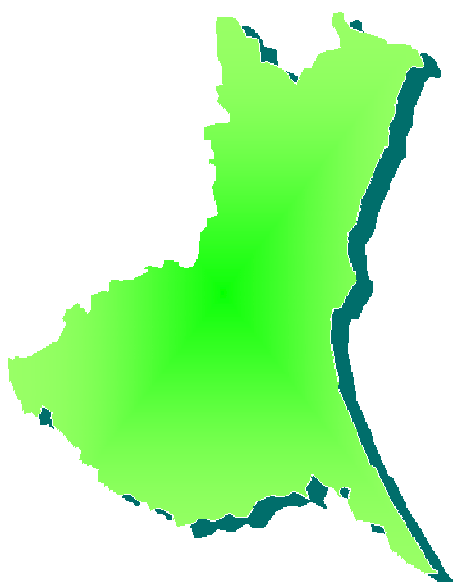


茨城県農林水産業の概況



令和4年6月

茨城県農林水産部

1 茨城県の概況

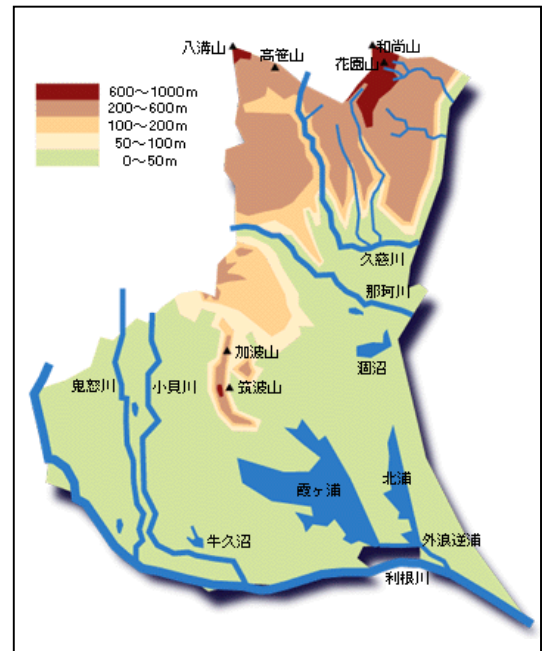
(1) 位置・面積

本県は東京の中心から北東に 40km～160km に位置し、総面積は約 61 万 ha で全国第 24 位です。このうち、耕地面積は約 16 万 ha で全国第 3 位、森林面積は約 19 万 ha で全国第 39 位です。

(2) 地形

本県の北部は、阿武隈山地の南端部にあたる八溝・久慈・多賀の諸山地が連なっており、その間に久慈川・那珂川流域の平坦地が広がります。また、県南部は関東平野の東部をなす平坦な地形となっており、広大な可住地を有しています。

本県の農地は、利根川、那珂川、霞ヶ浦流域の水田地帯と、那珂、行方、稲敷、石岡といった台地の畑作地帯、さらに県北の中山間地帯とに大別されます。



(3) 海岸線・湖

琵琶湖に次いで全国で 2 番目に大きな湖である霞ヶ浦（北浦を含む）と、鹿島灘に面する約 190km の長い海岸線を有しています。

(4) 平均気温・特産品

茨城県の年平均気温は、13～14.5℃の範囲で温暖であり、様々な動植物の南限北限の境となっています。このような気象条件等を生かし、数多くの農林水産物が生産されています。

◇ 地域の気象条件等を活かした特産品

みかん（つくば市）、かき（石岡市八郷地区）、りんご（大子町）

お茶（大子町・坂東市等）、落花生（つくば市等）

干しいも（ひたちなか市等）、千両・若松（神栖市波崎地区等）

江戸崎かぼちゃ*（稲敷市、牛久市桂町）、飯沼栗*（茨城町）

水戸の柔甘ねぎ*（水戸市、城里町、茨城町）

奥久慈しゃも*（大子町、常陸大宮市、常陸太田市、高萩市）

*地理的表示（GI）の登録をした産品

◇ 茨城県の面積と人口

	茨城県	全 国	本県の 順位
総面積 (ha) *1	609,739	37,797,524	24
可住地面積 (ha) *1	397,537	12,263,537	4
耕地面積 (ha) *2	162,300	4,349,000	3
森林面積 (ha)	*4 187,522	*3 25,048,199	*3 39
総人口 (千人) *1 男女計	2,860	126,167	11

*1 社会生活統計指標 2021(総務省)

*2 令和 3 年耕地面積 (7 月 15 日現在) (農林水産省令和 3 年 10 月 26 日公表)

*3 森林資源の現況 (林野庁平成 29 年 3 月 31 日現在)

*4 林政課資料 (令和 4 年 4 月 1 日現在)

2 農業の概況 ～本県農業の地位～

(1) 販売農家数

本県の農業は、我が国の農業のなかでも重要な地位を占め、販売農家数は全国第1位となっています。

◇ 本県の農業を表す主要な指標（※詳細は別添参考資料参照）

区 分		茨城県	全 国	本県の 順位
農 業 構 造	販売農家数（千経営体） *1	44	1,028	1
	農業経営体数（千経営体） *1	45	1,076	1
	うち主業経営体数（千経営体） *1	10	231	4
	基幹的農業従事者数（千人） *1	58	1,363	2
農業産出額（億円） *2		4,417	89,557	3
生産農業所得（億円） *2		1,606	33,621	2

*1 2020 年農林業センサス

販売農家 : 経営耕地面積 30 a 以上又は農産物販売金額 50 万円以上の農家
 主業農家 : 農業所得が主（農家所得の 50%以上が農業所得）で、65 歳未満の自営農業従事 60 日以上、世帯員がいる農家
 基幹的農業従事者 : 農業就業人口のうち、仕事として主に農業に従事した者。

*2 生産農業所得統計（令和 2 年農業産出額及び生産農業所得全国及び都道府県別）

(2) 農業産出額

本県の令和 2 年の農業産出額は 4,417 億円で、北海道、鹿児島県に次いで全国第 3 位です。また、首都圏への重要な食料供給基地となっており、東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額のシェアは 18 年連続で日本一となっています。

◇ 東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額とシェア

（単位：億円）

年	全体	茨城（金額シェア）	順位
H18	5,124	487（9.5%）	1 位
H19	5,032	500（9.9%）	1 位
H20	5,082	521（10.3%）	1 位
H21	4,968	518（10.4%）	1 位
H22	5,242	552（10.5%）	1 位
H23	4,946	458（9.2%）	1 位
H24	5,112	478（9.4%）	1 位
H25	5,184	517（10.0%）	1 位
H26	5,280	503（9.5%）	1 位
H27	5,664	566（10.0%）	1 位
H28	5,865	617（10.5%）	1 位
H29	5,701	602（10.6%）	1 位
H30	5,688	567（10.0%）	1 位
H31	5,346	522（9.8%）	1 位
R 2	5,506	562（10.2%）	1 位
R 3	5,356	527（9.8%）	1 位

参考資料：本県農業の地位

本県農業の地位

区 分		年次	茨城県			全国		全 国 の 順 位				
			実数	単位	順位	実数	単位	1	2	3	4	5
農業構造 (注1)	総農家数	R2年	71,761	戸	2	1,746,990	戸	長野	茨城	兵庫	福島	新潟
	販売農家数	〃	43,920	戸	1	1,027,782	戸	茨城	新潟	福島	長野	兵庫
	自給的農家数	〃	27,841	戸	5	719,208	戸	長野	愛知	兵庫	岐阜	茨城
	農業経営体	〃	44,852	経営体	1	1,075,580	経営体	茨城	新潟	長野	福島	兵庫
	個人経営体	〃	44,009	経営体	1	1,037,231	経営体	茨城	新潟	福島	長野	兵庫
	主業経営体	〃	9,654	経営体	4	230,844	経営体	北海道	青森	熊本	茨城	千葉
	準主業経営体	〃	4,809	経営体	9	142,528	経営体	新潟	福島	岩手	長野	兵庫
	副業的経営体	〃	29,546	経営体	1	663,859	経営体	茨城	兵庫	長野	福島	新潟
	団体経営体	〃	843	経営体	18	38,349	経営体	北海道	新潟	鹿児島	長野	熊本
	法人経営体	〃	770	経営体	9	30,700	経営体	北海道	鹿児島	新潟	長野	熊本
	基幹的農業従事者数	〃	57,496	人	2	1,362,914	人	北海道	茨城	長野	熊本	福島
	耕地面積	R3	162,300	ha	3	4,349,000	ha	北海道	新潟	茨城	青森	岩手
	田	〃	95,300	ha	6	2,366,000	ha	北海道	新潟	秋田	宮城	福島
	普通畑	〃	60,600	ha	3	1,126,000	ha	北海道	鹿児島	茨城	千葉	群馬
	樹園地	〃	5,970	ha	12	263,200	ha	静岡	青森	和歌山	愛媛	長野
	牧草地	〃	376	ha	26	593,400	ha	北海道	岩手	青森	熊本	沖縄
	1戸当たりの耕地面積	(注2)	2.28	ha	17	2.50	ha	北海道	青森	秋田	富山	宮城
	耕地利用率(田畑計)	R2年	91.1	%	13	91.3	%	佐賀	福岡	宮崎	福井	滋賀
農業生産 (注3)	農業産出額	R2年	4,417	億円	3	89,370	億円	北海道	鹿児島	茨城	千葉	熊本
	米	〃	756	億円	7	16,431	億円	新潟	北海道	秋田	山形	宮城
	園芸	〃	2,249	億円	2	36,711	億円	北海道	茨城	長野	千葉	青森
	いも類	〃	362	億円	2	2,370	億円	北海道	茨城	鹿児島	千葉	長崎
	野菜	〃	1,645	億円	2	22,520	億円	北海道	茨城	千葉	熊本	愛知
	果実	〃	97	億円	22	8,741	億円	青森	長野	和歌山	山形	山梨
	花き	〃	145	億円	6	3,080	億円	愛知	千葉	福岡	静岡	埼玉
	畜産	〃	1,270	億円	5	32,372	億円	北海道	鹿児島	宮崎	岩手	茨城
	生産農業所得	〃	1,606	億円	2	33,433	億円	北海道	茨城	熊本	鹿児島	千葉

注1) 2020年農林業センサスによる。耕地面積は令和3年耕地面積(7月15日現在)(農林水産統計)による。

注2) 1戸あたりの耕地面積は、令和3年耕地面積を2020年農林業センサス総農家数で割り返した数値。

注3) 令和2年生産農業所得統計による。

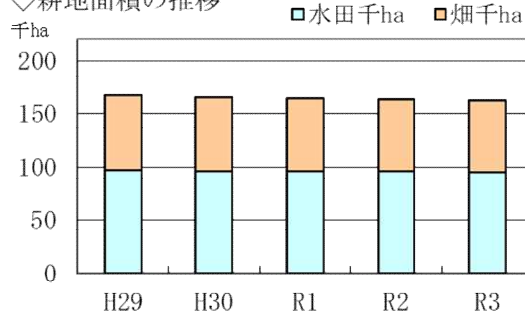
(1) 耕地面積

耕地面積は県土（61万ha）の約3割（16.2万ha）を占め、全国第3位ですが、年々減少しており、耕地利用率も全国平均をやや下回っている状況です。

◇ 本県の耕地面積（資料：耕地及び作付面積統計）

年	耕地面積 ha	水田 ha	畑 ha
H29	167,500	97,400	70,100
H30	166,000	96,900	69,200
R1	164,600	96,400	68,200
R2	163,600	96,100	67,600
R3	162,300	95,300	67,000

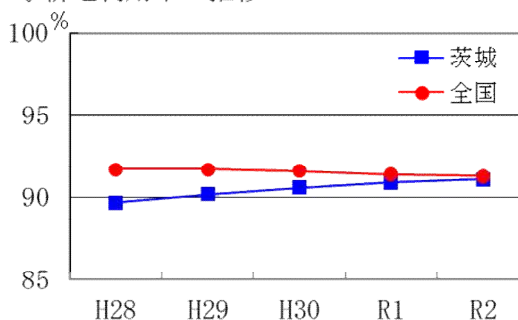
◇ 耕地面積の推移



◇ 耕地利用率（資料：耕地及び作付面積統計）

年	茨城県	全国
H28	89.7%	91.7%
H29	90.2%	91.7%
H30	90.6%	91.6%
R1	90.9%	91.4%
R2	91.1%	91.3%

◇ 耕地利用率の推移



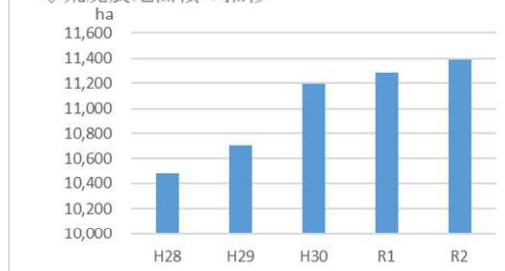
(2) 荒廃農地

荒廃農地が増加する等、農地の有効活用が課題となっています。

◇ 荒廃農地面積の推移（資料：農林水産省 HP「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査結果等」）

年	茨城県 ha	全国 ha
H28	10,484	281,219
H29	10,702	282,922
H30	11,195	279,970
R1	11,280	283,536
R2	11,393	281,831

◇ 荒廃農地面積の推移



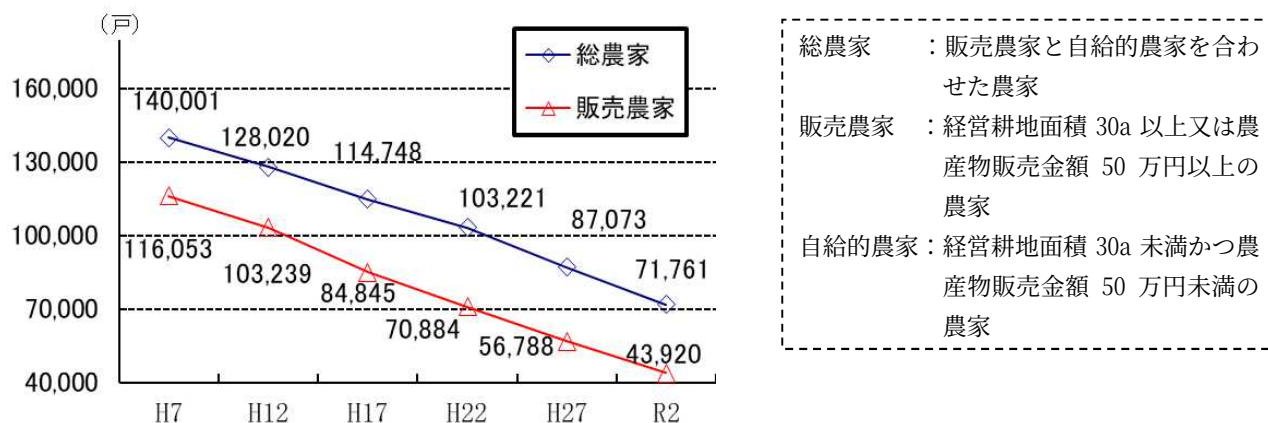
※荒廃農地：現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。

参考資料：農家－1

(1) 農家戸数

令和2年2月1日現在の総農家戸数は7万1,761戸で、平成27年に比べ1万5,312戸（▲17.6%）減少しました。このうち、販売農家は4万3,920戸で、平成27年に比べ1万2,868戸（▲22.7%）減少しました。

◇ 本県農家数の推移（資料：農林業センサス）



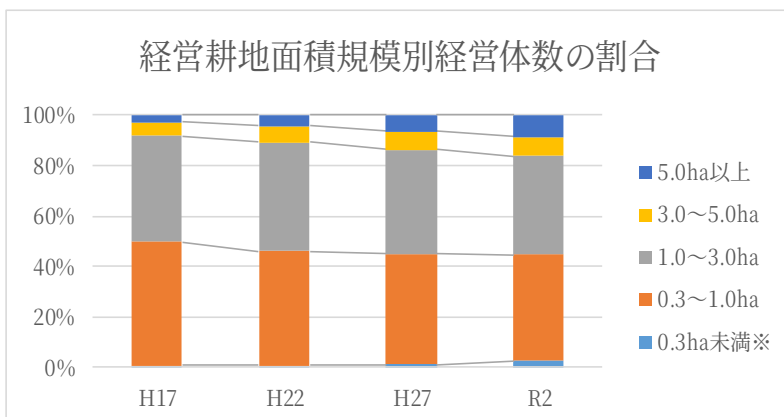
(2) 規模別経営体数

総農家数が減少する中で、3.0ha 以上の大規模農家は増加しています。一方、経営規模 0.3～3.0ha の農家は減少しており、大規模な専業経営と小規模な農家に分化しています。

◇ 経営耕地面積規模別経営体数（単位：経営体）

規模 \ 年	H17 (構成比)	H22 (構成比)	H27 (構成比)	R2 (構成比)
0.3ha 未満※	871 (1.0%)	657 (0.9%)	679 (1.2%)	1,125 (2.5%)
0.3～1.0ha	41,778 (48.9%)	32,395 (45.3%)	25,506 (44.0%)	18,922 (42.2%)
1.0～3.0ha	35,847 (41.9%)	30,705 (42.9%)	23,988 (41.4%)	17,596 (39.2%)
3.0～5.0ha	4,600 (5.4%)	4,655 (6.5%)	4,195 (7.2%)	3,414 (7.6%)
5.0ha 以上	2,415 (2.8%)	3,130 (4.4%)	3,621 (6.2%)	3,795 (8.5%)
計	85,511	71,542	57,989	44,852

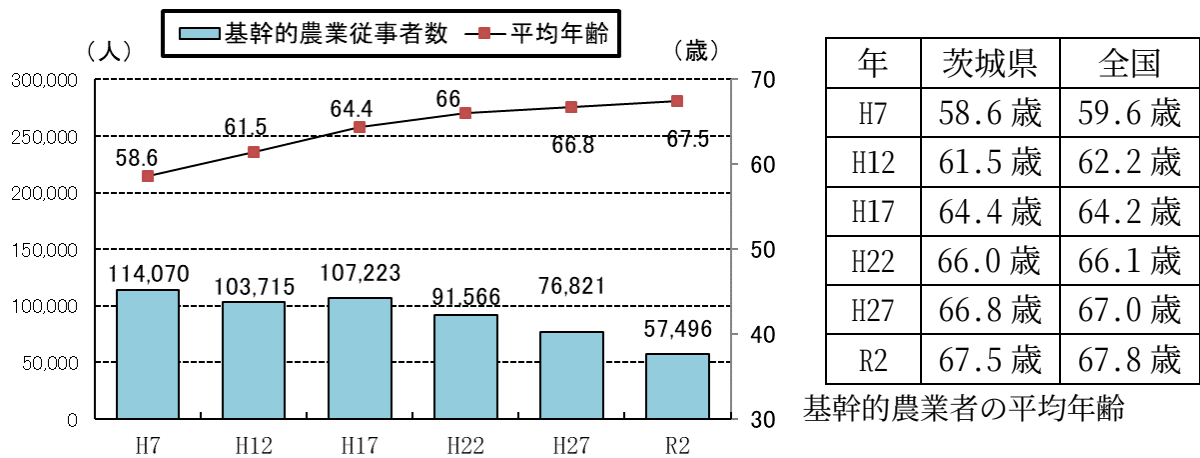
※0.3 未満には経営耕地なしの経営体を含む。



(3) 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者数は年々減少しており、高齢化が進行しています。

◇ 本県の基幹的農業従事者数と平均年齢（資料：農林業センサス）



(4) 認定農業者数

本県の認定農業者は、平成 20 年度 (H21.3 末) をピークに減少傾向にありましたが、平成 27 年度に経営所得安定対策等のうちゲタ・ナラシ対策の対象要件に認定農業者が追加されたことから、認定数が大きく増加しました。一方で、認定農業者のうち、法人数及び法人の占める割合は年々高くなっています。

◇ 本県の認定農業者数等の推移（資料：農林水産省経営局経営政策課調べ）

年度	H21	H27	H28	H29	H30	R1	R2
認定農業者数(a)	8,190	8,481	8,450	8,588	8,603	8,478	8,231
(a)のうち法人数(b)	407	530	588	632	658	696	731
法人化率 (b/a) (%)	5.0	6.3	7.0	7.4	7.6	8.2	8.9

(5) 新規就農者数

新規就農者数は平成 30 年度までは増加傾向にありましたが、その後、減少し、令和 2 年度も前年度から減少しました。特に、青年の雇用就農及びUターンが減少しました。

◇ 本県の新規就農者数の推移 (資料：農林水産部農業経営課調べ)

(単位：人)

年齢※	年度	H17	H27	H27 新	H28	H29	H30	R1	R2
青年 [H17-27 16～39 歳] [H27 新-R1 16～44 歳]	新規学卒	81	42	32	24	19	22	24	21
	Uターン	88	115	106	102	103	116	97	96
	新規参入	24	45	27	57	61	67	63	54
	雇用就農	—	—	135	145	163	173	137	133
	計	193	202	300	328	346	378	321	304
中高年齢者 [H17-27 40～65 歳] [H27 新-R1 45～65 歳]	Uターン	16	52	15	27	42	29	23	21
	新規参入	4	15	4	14	19	15	14	11
	雇用就農	—	—	27	11	19	13	25	21
	計	20	67	46	52	80	57	62	53
合計		213	269	346	380	426	435	383	357

※H27 新以降は、調査方法の変更により、年齢区分を青年（16～44 歳）、中高年齢者（45～65 歳）に変更し、新規就農者数に雇用就農者数を含む。

3 農業産出額

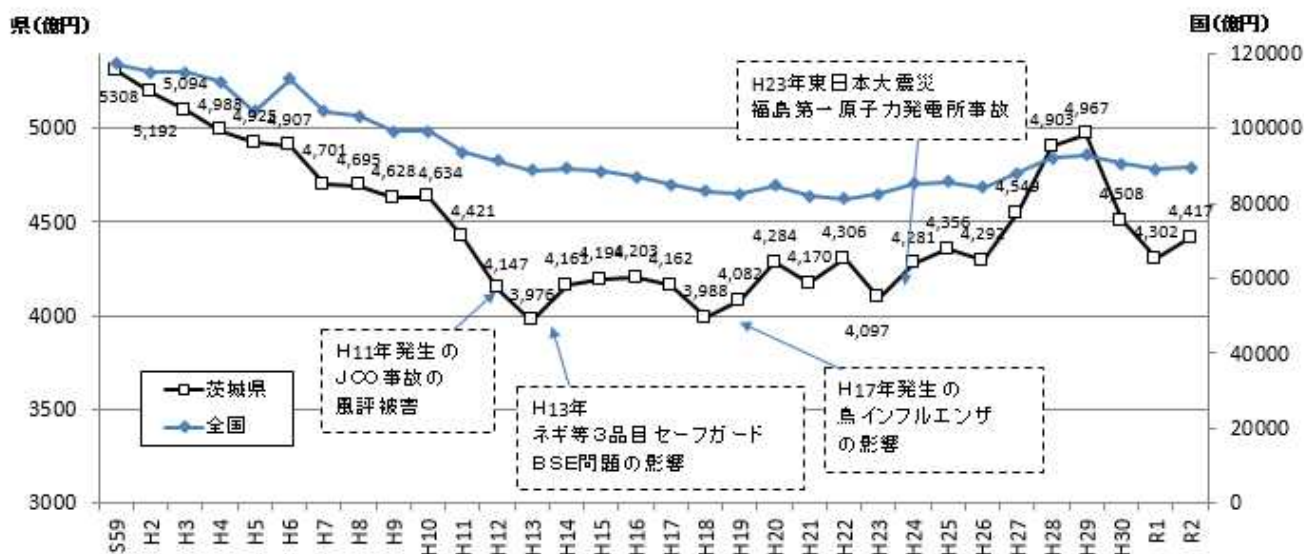
(1) 農業産出額

本県の農業産出額は、平成13年の3,976億円を底として以降、増加傾向で推移しており、令和2年は前年比115億円増の4,417億円で、全国順位は前年に引き続き全国第3位となりました。

内訳は園芸（いも類、野菜、果実、花き）が50.9%（2,249億円）、畜産が28.8%、米が17.1%であり、園芸部門の割合が高く、かんしょやメロン等産出額上位の品目が多いことも特徴です。

◇ 農業産出額推移

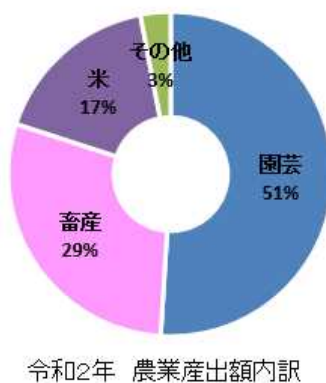
（資料：生産農業所得統計）



◇ 農業産出額と構成比

（資料：生産農業所得統計）

区 分		R 1		R 2	
		産出額	構成比	産出額	構成比
合計 (①+②+③)		4,302	100.0	4,417	100.0
耕種	耕種計 ①	2,976	69.2	3,055	69.2
	米	809	18.8	756	17.1
	麦類	7	0.2	6	0.1
	雑穀・豆類	20	0.5	20	0.5
	園芸 (いも類+野菜+果実+花き)	2,117	49.2	2,249	50.9
	いも類	308	7.2	362	8.2
	野菜	1,575	36.6	1,645	37.2
	果実	102	2.4	97	2.2
	花き	132	3.1	145	3.3
	工芸農作物	10	0.2	8	0.2
	種苗・苗木類・その他	13	0.3	16	0.4
畜産	畜産計 ②	1,243	28.9	1,270	28.8
	肉用牛	168	3.9	150	3.4
	乳用牛	219	5.1	211	4.8
	豚	354	8.2	397	9.0
	鶏	499	11.6	509	11.5
	その他畜産物	3	0.1	2	0.05
加工農産物 ③		83	1.9	92	2.1



※合計が総数と一致しないのは、四捨五入による。

◇ R2 品目別産出額順位

(資料:生産農業所得統計)

全国第1位	13品目	鶏卵、かんしょ、メロン、ピーマン、れんこん、ほしいも、みずな、こまつな、切り枝、チンゲンサイ、芝、くり、せり
全国第2位	5品目	レタス、はくさい、らっきょう、みつば、らっかせい
全国第3位	8品目	ねぎ、にら、スイートコーン、もやし、ごぼう、マッシュルーム、みょうが、こんにゃくいも

◇ 品目別農産物産出額の順位と構成比(令和2年)

(単位:億円)

	農産物名	産出額	構成比	全国順位
	県 計	4,417	100.0%	3
1	米	756	17.1%	7
2	鶏 卵	452	10.2%	1
3	豚	397	9.0%	6
4	か ん し ょ	301	6.8%	1
5	生 乳	193	4.4%	7
6	ね ぎ	155	3.5%	3
7	肉用牛	150	3.4%	12
8	ピーマン	135	3.1%	1
9	レタス	116	2.6	2
10	メロン	112	2.5	1
11	はくさい	109	2.5	2
12	トマト	104	2.4	4
13	れんこん	98	2.2	1
14	ほしいも	91	2.1	1
15	いちご	87	2.0	8
16	キャベツ	68	1.5	4
17	きゅうり	62	1.4	7
18	ほうれんそう	61	1.4	5
19	ばれいしょ	61	1.4	5
20	みずな	57	1.3	1
21	こまつな	57	1.3	1
22	日本なし	51	1.2	4
23	切り枝	51	1.2	1
24	なす	43	1.0	5
25	ブロイラー	37	0.8	18
26	にら	35	0.8	3
27	だいこん	34	0.8	6
28	すいか	30	0.7	5
29	にんじん	28	0.6	6
30	スイートコーン	28	0.6	3

(2) 生産農業所得

本県の実業所得は、平成 26 年の 1,384 億円を底として以降、増加傾向で推移しており、令和 2 年の全国順位は第 2 位となりました。

◇ 生産農業所得推移

(資料：生産農業所得統計)



(3) 本県の主な農産物の生産動向

(a) 米

本県の米の作付面積は 63,500ha(令和 3 年)で全国第 5 位、生産量は約 34.5 万 t で全国第 6 位となっています。全国有数の生産量を誇る主力品種の「コシヒカリ」をはじめ、県南地域等の早場米地帯を中心に関東でも早期に収穫・出荷されている「あきたこまち」や、本県育成のオリジナル品種の「ゆめひたち」「ふくまる SL」「一番星」など、様々な特徴を持つ品種が各地域で作付けされています。

◇ 米の産出額等

(資料：農林水産統計)

	年度	本県	全国
産出額	R2 (R1)	756 億円 (809 億円)	16,553 億円 (17,484 億円)
作付面積	R3 (R2)	63,500ha (67,800ha)	1,403,000ha (1,462,000ha)
10a 当り収量	R3 (R2)	543 kg (531 kg)	539 kg (531 kg)
作況指数	R3 (R2)	103 (103)	101 (99)



◇ 水稻収穫量の推移

(資料：農林水産統計)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全 国(千t)	8,519	8,604	8,435	7,986	8,042	7,822	7,780	7,762	7,763	7,563
茨城県(千t)	409	411	409	355	361	358	358	344	360	345
全国順位	4	4	5	5	7	6	7	7	7	6

また、本県では、各地域で「おいしさ」や「安全・安心」等にこだわった「地域オリジナル米」が栽培されています。

主な産地	・奥久慈の恵うまかっぺ	・潮来あやめちゃん
	・筑波北条米	・おかずのいらないかわちのお米
	・うまさ駆け抜ける美浦そだち	・ななかいの里コシヒカリ
	・みずほちゃん	・笠間の粋 かさまのう米

(b) そば

本県で品種育成し、栽培されている常陸秋そばは、全国の有名そば職人から高い評価を得ています。

◇ そば収穫量

(資料：農林水産統計)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
茨城(t)	2,750	2,150	2,120	1,980	2,090	1,770	2,020	2,010	2,770	2,060
全国順位	3	3	3	3	2	4	3	6	4	7

◇常陸秋そば使用店(R4.3 現在)：229 店 (うち「けんちんそば」取扱店：139 店)

(c) いも類

かんしょの作付面積は7,220ha(令和3年)で全国第2位、産出額は301億円(令和2年)で全国第1位となっています。

また、ほしいもの産出額は91億円(令和2年)で全国第1位となっており、シェアは9割以上を占めています。

品種については、以前は「ベニアズマ」、「タマユタカ」(ほしいも用)が主流でしたが、近年、「べにはるか」(甘みが強く、肉質が粘質)の栽培が増加しています。



◇ かんしょの産出額等

(資料：農林水産統計 生産農業所得統計 R2データ、作物統計調査 R3データ)

順位	県名	産出額(億円) (R2)	作付面積(ha) (R3)	収穫量(t) (R3)
1	茨城県	301(31%)	7,220(22%)	189,200(28%)
2	千葉県	178(18%)	3,800(12%)	87,400(13%)
3	鹿児島県	140(14%)	10,300(32%)	190,600(28%)
	全 国	981	32,400	671,900

ばれいしょの作付面積は1,620ha(令和2年)で、ポテトチップスなどの加工用品種では、「トヨシロ」、「ワセシロ」、青果用では、「とうや」、「メイクイン」、「男爵薯」、「キタアカリ」などの品種が栽培されています。

(d) 野菜

◇ 指定野菜 13 品目(ばれいしょ除く)の作付面積等

(資料：農林水産省野菜生産出荷統計 R2 年データ)

区分	キャベツ	きゅうり	さといも	だいこん	トマト	なす	にんじん
面積(ha)	2,370	487	245	1,210	886	426	831
全国順位	4	5	16	7	2	3	5
傾向	→	→	↓	↓	→	→	↓

区分	ねぎ	はくさい	ピーマン	レタス	たまねぎ	ほうれんそう
面積(ha)	1,960	3,350	536	3,490	187	1,290
全国順位	3	1	1	2	12	4
傾向	↑	→	→	↓	↑	↑

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ 茨城県の作付面積が全国上位の品目(13 品目外)

(資料：農林水産省 野菜生産出荷統計 R2 年データ)

区分	れんこん	メロン	みずな	ちんげんさい	みつば	カワラナ	ごぼう
面積(ha)	1,690	1,210	1,040	512	166	113	791
全国順位	1	1	1	1	1	1	2
傾向	↑	↓	↑	↑	↓	→	↓

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ メロン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R2 年データ、野菜生産出荷統計 R2 年データ)

- ・本県のメロンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内の主な産地は銚田市、八千代町、茨城町です。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	112(19%)	1,210(19%)	31,600(23%)
2	北海道	103(17%)	955(15%)	20,100(15%)
3	熊本県	97(16%)	862(14%)	23,100(17%)
	全 国	600	6,250	134,700



◇ ピーマン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R2 年データ、野菜生産出荷統計 R2 年データ)

- ・本県のピーマンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内では鹿行地域を中心に栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	135(23%)	536(17%)	32,500(23%)
2	宮崎県	124(21%)	303(10%)	26,800(19%)
3	鹿児島県	54(9%)	142(4%)	11,800(8%)
	全 国	597	3,160	142,800



(e) 果実

令和 2 年の本県樹園地面積は 6,090ha(前年比 98.4%)、果樹産出額は 97 億円(同 95.1%)で、本県農業産出額全体の約 2.2%を占めています。

主な品目には、収穫量が全国第 3 位の梨、全国第 1 位の栗(令和 2 年：3,790t)があり、その他に、りんご、ぶどう、かき、ブルーベリー等が栽培されています。

◇ なし (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R2 年データ、果樹生産出荷統計 R2 年データ)

・本県のなしは、産出額全国第 4 位、結果樹面積第 2 位、収穫量第 3 位です。

主要な品種として、幸水(5 割)、豊水(3 割)、新高(1 割)等が栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	結果樹面積(ha)	収穫量(t)
1	千葉県	87(13%)	1,360(13%)	18,200 (11%)
2	鳥取県	57(8%)	686(6%)	13,700 (8%)
3	福島県	56(8%)	821(8%)	12,900 (8%)
4	茨城県	51(8%)	922(9%)	13,500 (8%)
—	全 国	674	10,700	170,500



(f) 花き

本県の花き生産は、小菊、グラジオラス等の切り花の他、若松、千両、柳などの切り枝類など露地栽培が大半を占めています。

本県花きの令和元年の栽培面積は 3,794ha(前年比 99.5%)、令和元年の産出額は 132 億円(同 96.4%)で、本県農業産出額全体の約 3.1%を占めています。

◇ 花きの種類別作付面積 (資料：農林水産省 花き生産出荷統計 R1 年データ)

種 類	作付面積(ha)	主要品目等
切花類(切枝類含む)	554	小菊、ばら、グラジオラス等
鉢物類	75	シクラメン、洋ラン等
花壇用苗物類	65	パンジー等
芝	3,100	
計	3,794	



(g) 畜産

近年、生産者の高齢化や飼料価格の高騰などから家畜飼養戸数は減少傾向にあります。

令和2年畜産産出額は1,270億円であり、本県の農業産出額の約28.8%を占めており、全国順位では第5位となっています。畜種別では、鶏は509億円で第4位（うち鶏卵は452億円で第1位）、豚は397億円で第6位、生乳は193億円で第7位、肉用牛は150億円で12位であり、全国の中で上位に位置しています。

また、本県を代表する畜産物として、銘柄畜産物の「常陸牛」、「常陸の輝き」、「ローズポーク」、「奥久慈しゃも」が育てられています。

◇ 本県の家畜飼養頭羽数（R3.2.1 現在）の推移

（資料：畜産統計）

	乳用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉豚 飼養頭数(頭)	全国 順位	採卵鶏 飼養羽数(千羽)	全国 順位	ブロイラー 飼養羽数(千羽)	全国 順位
H24	28,600	8	53,600	16	591,900	6	12,534	1	(1,707)	-
H25	27,900	8	53,900	15	582,900	6	13,151	1	1,717	17
H26	26,700	8	52,800	14	559,500	6	12,648	1	1,487	18
H27	25,500	8	51,000	14	(540,600)	-	(13,295)	-	(1,660)	-
H28	24,200	8	50,200	15	557,700	6	12,840	1	1,613	17
H29	24,100	8	49,700	15	546,300	6	13,433	1	1,552	17
H30	23,800	8	49,700	14	552,000	6	13,879	1	1,233	21
H31	24,500	7	49,200	14	466,400	6	15,167	1	1,135	21
R2	24,300	7	50,200	15	(482,300)	-	(15,863)	-	(1,765)	-
R3	23,800	7	49,900	16	513,400	6	17,756	1	1,327	19

※平成22年及び平成27年及び令和2年の肉豚、採卵鶏、ブロイラーの飼養頭羽数、及び平成23年及び平成24年のブロイラーの飼養羽数は畜産課の調査結果を（ ）で参考値として記載する。

(4) いばらきの野菜・果物・肉の買える店、食べられる店

茨城県産品を取り扱う販売店や料理店の店舗を指定し、イメージアップや販売促進を図っています。

買える店：年間を通して茨城県産農産物を販売している店

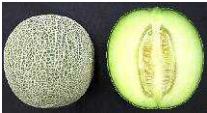
食べられる店：茨城県産の食材を使ったメニューを提供する料理店

区分	買える店（うち県外）	食べられる店（うち県外）
県産品販売指定店、提供店	272（-）	195（2）
常陸牛販売指定店・推奨店	304（111）	292（66）※
常陸の輝き販売店・飲食店	65（16）	64（16）
ローズポーク販売指定店	147（14）	52（1）
奥久慈しゃも料理店・販売店	41（16）	164（51）

※海外店舗を含む

（R4.2 現在）

参考資料：本県オリジナル品種や、ブランド化を目指す品種等

品 種 名	概 要	
水稲 ふくまる SL		茨城県オリジナル水稲品種「ふくまる SL」は、これまでの「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与した品種で、R2 年に県の奨励品種に採用及び品種登録出願公表しました。大粒で、炊き増えがよく、冷めても粘りがあり食味が低下しにくい品種です。また、高温の年にも白未熟粒の発生が少なく、品質が安定しています。現在は、中食・外食向けに加えて、家庭用の精米にも取り組むなど、販路の拡大を進めています。 参考)栽培面積： H29 年 628ha、H30 年 695ha、R1 年 754ha、R2 年 796ha、R3 年 975ha※ ¹ ※1：計画面積
常陸大黒		茨城県オリジナル花豆品種「常陸大黒」は、ベニバナインゲンとしては国内初の種皮色が黒一色で、輝くような光沢のある高品質・大粒の品種です。H14 年に品種登録しました。現在は県北中山間地域を中心に、県内に限り栽培されています。県内の企業によって菓子類等の加工品も開発されています。 参考)栽培面積： H28 年 472a、H29 年 347a、H30 年 230a、R1 年 108a、R2 年 67a、R3 年 80a
メロン イバラキング		茨城県オリジナルメロン品種「イバラキング」は、H22 年に品種登録しました。本県産メロンの最盛期である 5 月中旬以降に出荷するこれまでの主力品種よりも 1 割以上果実が大きく、低温でも肥大性に優れます。上品な甘さと滑らかな肉質が特徴です。 参考)栽培面積※ ² ：H29 年 21.0ha、H30 年 26.6ha、R1 年 32.9ha、R2 年 38.5ha、R3 年 44.0ha ※2：収穫年の栽培面積
ナシ 恵水		茨城県オリジナル梨品種「恵水」は、H23 年に品種登録しました。9 月上旬～下旬に収穫できる中生品種で、平均糖度は 13%と高く、果実は 600 g 前後の大果で豊産性です。高樹齢樹やみつ症発生園を中心に改植を進めるとともに、貯蔵技術の確立に取り組んでいます。平成 31 年度から、トップブランド化に取り組んだ結果、高級果実専門店において高値販売が実現しました。 参考)栽培面積(成木換算)：H28 年 9.6ha、H29 年 14.8ha、H30 年 18.6ha、R1 年 22.5ha、R2 年 27.4ha、R3 年 33.8ha
ぶどう シャインマスカット		農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成されたぶどう「シャインマスカット」は、平成 18 年 3 月に品種登録された欧州系品種です。果皮色が輝くような黄緑色で、上品なマスカット香があり、肉質硬く、食味も良好で皮ごと食べられます。茨城県では、独自に高品質栽培技術を開発し、普及を図っています。 参考)栽培面積：H28 年 6.3ha、H29 年 6.4ha、H30 年 11.4ha、R1 年 11.4ha、R2 年 11.6ha、R3 年 11.5ha
イチゴ いばらキッス		茨城県オリジナルイチゴ品種「いばらキッス」は、H24 年に品種登録しました。果実の形状、甘さと酸味のバランスが良く食味が優れます。生産技術の普及、生産の拡大、品種の認知度向上を進めています。 参考)栽培面積：H29-30 年 990a、H30-31 年 1,040a、R1-2 年 1,095a、R2-3 年 1,120a、R3-4 年 1,193a
花のオリジナル品種	県では小菊、グラジオラス等の新品種を育成しています。    	

○常陸牛



常陸牛とは、茨城県内の指定生産者が約 30 ヶ月にわたり飼育した黒毛和牛のうち、(公社)日本食肉格付協会の枝肉取引規格の歩留等級 A 又は B 等級かつ肉質等級が 5 と 4 等級のもので、茨城県常陸牛振興協会が認定したものです。

常陸牛の状況

(各年度末現在)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
出荷頭数(頭)	8,288	9,517	9,789	8,710	8,579	8,815	9,532	10,136	11,004
生産者数(戸)	206	195	186	171	161	152	150	146	145
常陸牛指定店数(店)	451	495	511※	531※	553※	567	585	584	586

※海外店舗を含む

○常陸の輝き



常陸の輝きは、茨城県畜産センターが開発したデュロック種の系統豚「ローズ D-1」を交配した三元豚です。専用の飼料でじっくり育て上げており、やわらかく、旨味があり、香りが良い肉質が特徴です。

常陸の輝きの状況

	H30	H31	R2	R3
出荷頭数(頭)	500	7,607	17,263	19,642
生産者数(戸)	3	7	7	6
販売店数(店)	-	93	60	64

○ローズポーク



ローズポークは、県花「バラ」にちなんで命名された銘柄豚です。県が開発した高能力な系統豚を交配して生産した豚に、県内の指定生産者が大麦を加えた専用飼料で育てた、きめ細やかで適度な脂肪を含んだ風味のある豚肉です。

ローズポークの状況

(各年度末現在)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
年間生産頭数(頭)	35,120	31,979	31,179	30,635	30,285	31,469	33,195	36,278	39,249
生産者数(戸)	35	33	31	29	28	26	24	22	20
販売店数(店)	216	220	223	216	221	220	221	199	196

○奥久慈しゃも



奥久慈しゃも（生産者団体：奥久慈しゃも生産組合）は、血統要件や平飼いの飼育面積など厳しい条件をクリアした豊かな風味の地鶏です。平成 30 年 12 月に地鶏としては全国で初めて地理的表示（GI）保護制度に登録されました。

奥久慈しゃもの状況

（各年度末現在）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
生産羽数（羽）	40,737	42,307	42,385	46,969	50,739	44,351	43,323	46,159	41,157
生産者数（戸）	10	10	10	10	9	9	9	9	9
販売店数（店）	169	190	197	206	206	223	232	205	201

（１）6次産業化に取り組む経営体数

令和２年の農産加工を行っている経営体数は1,298で、平成27年比で約1.5倍となっています。また、海外への輸出も、平成27年比で約6倍と大きく増加しています。

◇ 農業生産関連事業を行っている経営体

事業内容	茨城県			全国		
	H22	H27	R2	H22	H27	R2
農産物の加工	1,502	894	1,298	34,172	21,503	29,950
貸農園・体験農園等	103	64	30	5,840	3,051	1,533
観光農園	343	241	213	8,768	5,862	5,275
農家民宿	13	4	5	2,006	1,639	1,215
農家レストラン	28	16	29	1,248	873	1,244
海外への輸出	8	5	29	445	351	412

（資料：農林業センサス）

（２）6次産業化関連事業の販売金額

令和２年の本県の6次産業化関連事業の年間販売金額（農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計額）は、530億円と上昇し、全国第14位となっています。

◇ 6次産業化関連事業※の年間販売金額

H29			H30			R1			R2		
順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)
1	北海道	150,023	1	北海道	149,354	1	北海道	147,430	1	北海道	150,350
2	静岡	109,259	2	静岡	108,466	2	静岡	111,283	2	静岡	98,347
3	愛媛	82,351	3	愛媛	80,467	3	福岡	79,760	3	福岡	81,049
4	福岡	81,077	4	福岡	80,354	4	愛媛	76,096	4	熊本	77,509
5	熊本	76,041	5	熊本	74,968	5	熊本	71,932	5	愛媛	75,412
15	茨城	47,799	17	茨城	48,511	17	茨城	48,957	14	茨城	52,959

※ 農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計

出典：農林水産省 6次産業化総合調査

(3) 県内の直売所数

直売所数は近年減少傾向で推移しているものの、直売取引による市場外流通は、6次産業化や地産地消の推進において重要な役割を担っています。

◇ 県内の有人直売所数 (資料：農産物直売所等実態調査、販売流通課調べ)

年度	H6	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
県北	79	37	36	41	42	42	43	43	41	41	40
県央	—	52	49	50	52	51	48	48	49	44	41
鹿行	9	29	29	31	30	30	31	31	31	30	27
県南	33	108	102	107	110	108	106	97	90	95	101
県西	14	67	66	64	62	60	58	58	54	53	44
合計	135	293	282	293	296	291	286	277	265	263	253

参考資料：農林水産物の輸出

本県農林水産物の輸出実績は、青果物で 1,040.3t、米で 1,821.1t、畜産物(常陸牛、鶏卵)で 162.3t、水産物で 39,680t（令和 2 年）となっており、特に農畜産物において増加傾向にあります。

青果物は、タイ及びカナダ向けかんしょの輸出が順調に拡大したことにより、輸出量が前年度比 207.2%(金額は 196.1%)と大幅に増加しました。

米については、米国・香港・シンガポール向けの販売が順調に拡大したことで輸出量が前年度比 128.2%(金額は 133.4%)に増加しました。

常陸牛は、アメリカ向け常陸牛の販路開拓により販売を維持しましたが、タイ及びベトナムでのコロナ禍による飲食店の営業規制等により、輸出量は 7.3t（前年度比 32.2%）に減少しました。一方で、シンガポール及び香港向け鶏卵の輸出が開始され、畜産物の輸出量は前年度比 715.0%と急拡大しました。

水産物の輸出量は、国内のさば缶需要の増加により、冷凍さばの輸出量が減少した前年度と同等の 104.3%（金額は 97.9%）となりました。

◇ 輸出実績の推移

（t・百万円）

品目	項目	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	前年度対比(%)
青果物	量	179.0	346.3	623.4	502.0	1,040.3	207.2
	金額	71	123	201	158.9	311.6	196.1
米	量	77.4	74.5	574.3	1,420.6	1,821.1	128.2
	金額	16	15	85	218.3	291.2	133.4
畜産物	量	3.4	14.3	20.8	22.7	162.3	715.0
	金額	42	182	260	265.8	134.6	50.6
水産物	量	44,757	57,987	55,292	38,055	39,680	104.3
	金額	4,658	6,335	6,729	5,400	5,285	97.9
全体	量	45,017	58,422	56,511	40,000	42,704	106.8
	金額	4,787	6,655	7,275	6,043	6,022	99.7

※ 県事業等を通じて関与した事業者などへの聞取調査結果（県調べ）

※ 水産物は年度ではなく年（暦年）で集計

（その他） 常陸牛海外販売推奨店数 R2：30 店舗

（タイ 7 店舗、ベトナム 17 店舗、アメリカ 6 店舗）

4 森林・林業の概況

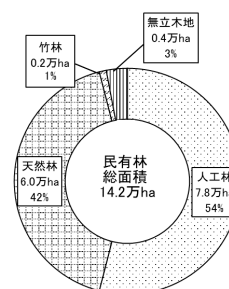
(1) 本県森林の特徴と地位

- (a) 本県の森林面積は 18.8 万 ha で、県土総面積 61 万 ha の 31% を占めています。森林面積のうち 14.2 万 ha が民有林であり、戦後、積極的にスギやヒノキの造林が進められた結果、人工林率は全国でも上位となっています。これらの森林は、県北部を中心とする山岳林地帯と、県中央部から南西部にかけての平地林地帯とに大別されています。

茨城県の森林分布（森林部分は黒色表示）



民有林面積の内訳（R4.4）



- (b) 県北部を中心とする山岳林は、主としてスギやヒノキなどの人工林からなる代表的な林業地帯であり、森林資源は年々増加し、本格的な利用期を迎えている。

県中央部から南西部の平地林は、都市化の進展に伴い年々減少していますが、都市近郊の生活環境保全のための森林として期待が一層高まっています。このため都市化の進展との調和を図りながら、森林の整備を進めていく必要があります。

- (c) 県内の民有林のうち人工林の森林蓄積※は、約 2,324 万 m³、1ha 当たりの蓄積は、305 m³ となっており、年々増加する傾向にあります。これは全国平均 353 m³（平成 29 年 3 月 31 日、林野庁調べ）の約 9 割となっています。

※森林蓄積：森林における立木の材積をいう。

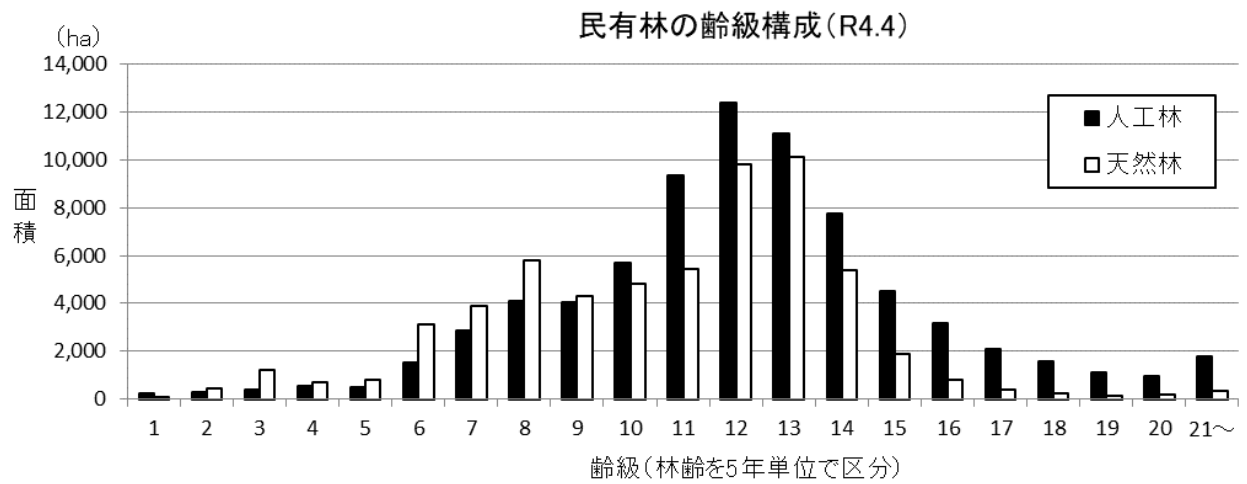
◇ 本県林業の地位

区分	単位	茨城県	全国	順位	シェア (%)
森林面積	ha	*1 187,522	*2 25,048,199	*2 39	*2 0.7
国有林面積	ha	*1 45,037	*2 7,658,728	*2 21	*2 0.6
民有林面積	ha	*1 142,485	*2 17,389,471	*2 40	*2 0.8
民有林人工林	ha	*1 76,080	*2 7,915,724	*2 38	*2 1.0
林野率	%	*1 31	*2 67	*2 45	—
民有林人工林率	%	*1 53	*2 46	*2 17	—
林業経営体数	戸	*3 407	*3 34,001	*3 30	*3 1.2

*1：林政課資料（令和 4 年 4 月 1 日現在） *2：森林資源の現況（平成 29 年 3 月 31 日、林野庁）

*3：2020 年農林業センサス

◇ 民有林の齢級構成

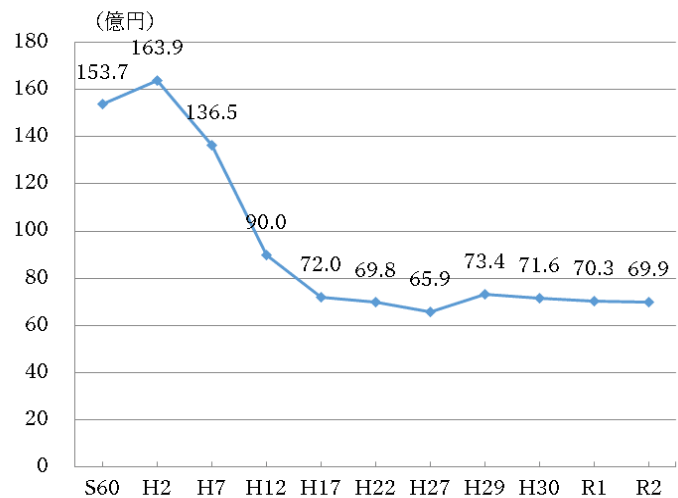


(2) 本県の林産物の生産動向

令和2年の林業産出額は69.9億円で全国20位です。森林面積は下位の一方、林業産出額は比較的上位に位置していますが、昭和60年に比べると約5割となっています。

◇ 本県の林業産出額の推移

(資料：農林水産省 林業産出額)



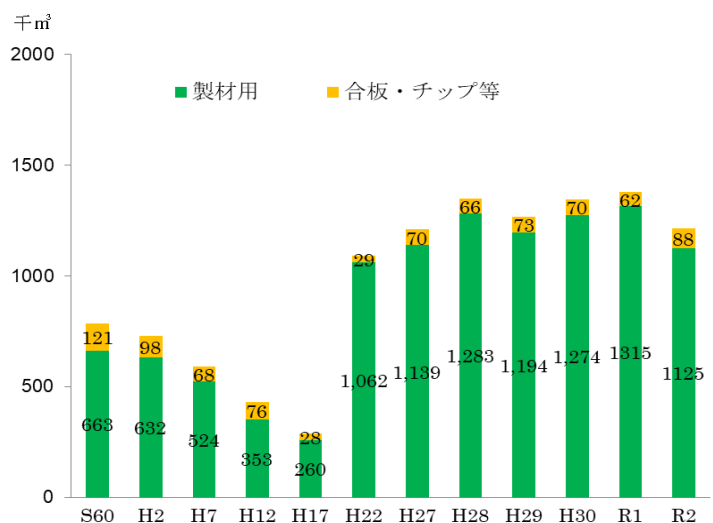
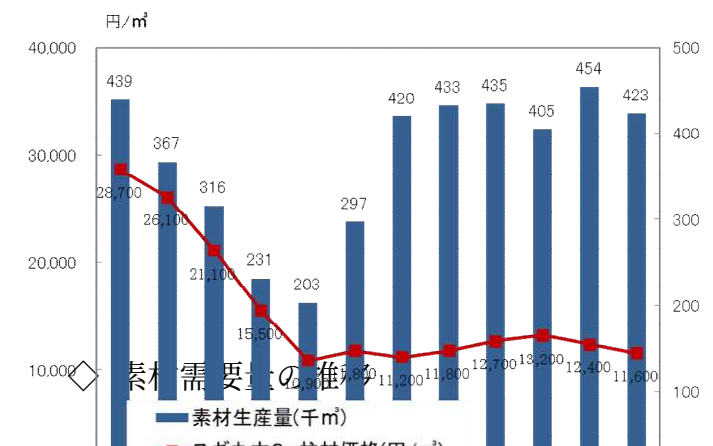
(a) 木材

素材生産については、昭和40年の65.2万 m^3 をピークに、その後の木材価格の低迷や林業労働力の減少、高齢化などにより減少傾向を示し、平成15年には18.7万 m^3 まで減少しましたが、その後は増加傾向にあり、令和2年には42.3万 m^3 （昭和40年比64.9%）となっています。

また県内の素材需要量については、平成17年を底として、増加傾向にあり、平成24年からは横ばいに推移しています。令和2年には121.3万 m^3 となっており、内訳としては、製材用が112.5万 m^3 、合板・チップ等が8.8万 m^3 となっています。

◇ 素材生産量と素材価格の推移

(資料：木材統計、木材市況)



(b) 特用林産物

県内における特用林産物は、シイタケをはじめとするきのこ類や、桐、竹、うるし等の特用樹、わらび等の山菜類など、多種にわたっています。

特用林産物の産出額は約 30.3 億円 (R2) で、このうち、きのこ類は約 29.7 億円(約 98%)を占めています。

令和 2 年の生シイタケの生産は 766 トンで全国第 24 位の生産量となっています(原木生シイタケが 339 トンで全国第 5 位、菌床生シイタケが 427 トンで全国第 29 位)。

また、特用樹のうち本県産うるしは品質的に優れており、年間 371kg の生産量があり、岩手県に次ぐ全国第 2 位の生産量となっています。

これらの特用林産物は、健康食品としての生産販売や漆器など伝統工芸にも活用されており、林家の経営上、重要な短期収入の役割を果たしています。

◇ 特用林産物の生産状況

(資料:「特用林産関係情報集」林業技術センター)

年次	単位	S60	H2	7	12	17	22	27	R1	R2
特用林産生産額	百万円	7,149	7,217	6,325	5,235	5,311	3,001	2,772	2,879	3,031
きのこ類生産額	百万円	6,329	6,710	5,861	4,807	5,064	2,955	2,721	2,831	2,973
生シイタケ生産量	トン	4,738	4,744	4,108	4,101	3,100	1,385	771	803	766
うるし生産量	kg	1,150	1,100	920	530	298	237	178	307	371

(3) 森林湖沼環境税を活用した森林の保全・整備

○ 自立した林業経営による適切な森林の整備・管理

◆森林整備の推進

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う
再造林等の森林整備に対し補助

	R4-R8	うちR4 年度計画
再造林	885ha	135ha



伐採後の再造林

◆自立した経営体の育成

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う高性能林業機械やスマート林業機器の導入に対し補助

スマート林業に取り 組む経営体数	10経営体	4経営体
---------------------	-------	------



高性能林業機械による伐採

◆県産木材の利用促進

- ・木材利用のモデルとなる大規模な建築物の木造化・
木質化や保育園等への木製品の導入などに対し
補助

施設の木造化・木質化	35施設	7施設
------------	------	-----



建築物の木造化・木質化

○ 森林環境の保全

◆海岸防災林の保全

- ・松くい虫予防のための薬剤散布や被害木の伐倒処理、広葉樹等の植栽等を実施

植栽面積	40ha	8ha
------	------	-----



広葉樹等の植栽

◆森林環境教育

- 森林の役割や公益的機能重要性、木材利用の意義等
について理解を得るための森林・林業体験学習を実施

参加人数	23,300人	3,500人
------	---------	--------



森林・林業体験学習

5 水産業の概況

(1) 本県水産業の特徴と地位

(a) 海面の地理的特徴

本県は北部太平洋に面し、那珂川を境に北部は岩礁域、南部は砂浜域に分かれており、単調な海岸線を形成していることが特徴です。沖合では親潮と黒潮が交錯することから、寒暖両方の魚介類が漁獲される好漁場が形成されています。

(b) 海面漁業

本県の海面では、前述の漁場特性と高い生産力を活かした多種多様な漁業が営まれています。遠洋・沖合漁業では、本県の基幹漁業である大中型まき網のほかに沖合底びき網等が、また、沿岸漁業では、船びき網を中心に小型底びき網、さし網等が行われています。海面養殖業は、直接外海に面しているという地理的特徴により、ほとんど行われていません。令和2年の漁獲量は302,213tで、全国第2位です。



図 揚網中の大中型まき網船

(c) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

本県の内水面には、全国第2位の面積を持つ霞ヶ浦北浦があり、漁船漁業やこい等の養殖業が行われています。また、那珂川、久慈川、涸沼等、大小227の河川や湖沼における漁業のほか、県北地域を中心ににじます、やまめ等の冷水性魚類の養殖が行われています。令和2年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）漁獲量は2,438tで、全国第4位です。令和2年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収穫量は920tで、全国第9位です。

(d) 水産加工業

沿海地区や霞ヶ浦北浦地区では、それぞれの特色を活かした水産加工品の生産が盛んです。地元に水揚げされた原料を用いた冷凍品、しらす干し、佃煮等のほか、輸入原料を用いた蒸しだこ、干しししゃも等を生産しています。令和元年の水産加工品生産量は171,545tで、全国第4位です。

◇ 本県漁獲量（収穫量）及び水産加工品生産量、全国順位、産出額

項目	漁業種類	R1	R2	R2 全国	R2 順位	R2 シェア
漁獲量 (t)	海面漁業	290,796	302,213	3,213,334	2 位	9.4%
	内水面漁業	2,605	2,438	21,745	4 位	11.2%
	霞ヶ浦北浦	729	670	-	-	-
収穫量 (t)	内水面養殖業	1,099	920	29,087	9 位	3.2%
	こい養殖	970	812	2,247	1 位	36.1%
水産加工品生産量 (t)	—	171,545	149,886※	2,547,954		5.9%
産出額 (百万円)	海面漁業	21,817	22,536	773,483	10 位	2.9%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

※合計数値は、R2 から統計方法が品目毎の「主要県調査」となったことで公表されなくなったため、品目毎の数値を足し上げることで算出することとした。(R1 以前の統計よりも過少)

(2) 本県水産業の生産動向

◇ 漁獲量の全国順位が上位の本県主要魚種（*内水面魚種） 単位：t

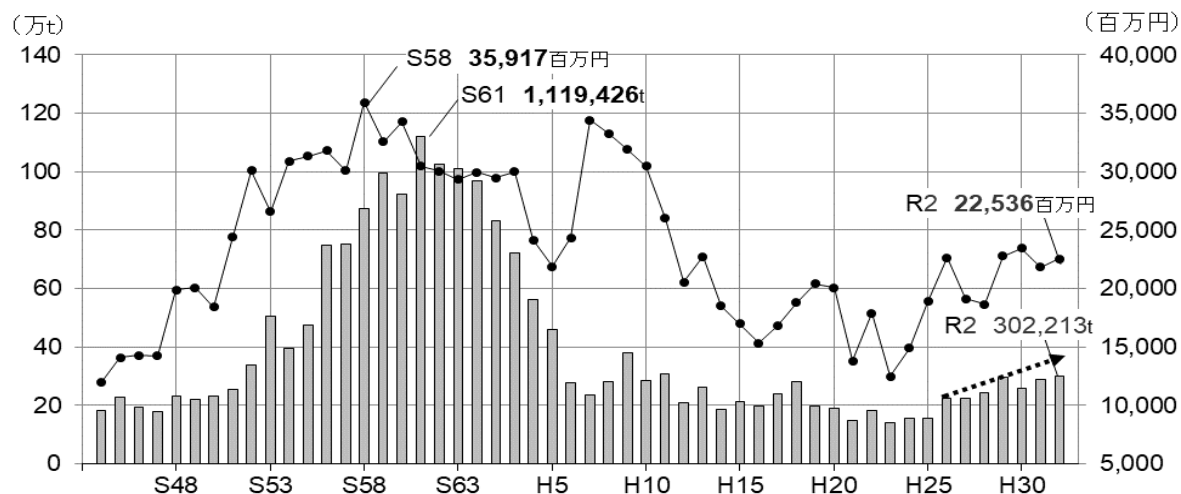
全国順位	平成 30 年		令和元年		令和 2 年	
1 位	まいわし	139,214	まいわし	207,157	まいわし	223,966
	さば類	104,273	*えび類	135	さば類	63,223
	*あゆ	405	*うなぎ	12	*えび類	89
	*えび類	253	*はぜ類	8	*うなぎ	14
	*うなぎ	15	*こい養殖	970	*こい養殖	812
	*こい養殖	1,063				

（資料：漁業・養殖業生産統計）

(a) 海面漁業

本県の海面漁業漁獲量は、主に大中型まき網漁業で漁獲されるいわし類やさば類といった多獲性魚種の豊凶により大きく変動します。漁獲量は、昭和 40 年代は 20 万 t 前後で推移したところ、昭和 50 年代に入り、さば類の豊漁や、まいわし資源の急増によって増加し、昭和 61 年に 112 万 t 近くに達しました。その後、まいわし資源の大きな減少等により、平成 10 年代以降は 20 万 t 前後で推移しています。近年は、まいわしやさば類の豊漁等によって増加傾向にあり、令和 2 年の漁獲量は 302,213t で、全国第 2 位です。

◇ 本県海面漁獲量及び漁業産出額の推移



（資料：漁業・養殖業生産統計）

① 遠洋・沖合漁業

大中型まき網は、本県海面漁業漁獲量の約 9 割を占める本県漁業の中核であるとともに、いわし類、さば類等を利用する水産加工業等の関連産業を支える、沿海地域の重要産業です。多獲性魚種が漁獲の大部分を占めており、令和 2 年の漁獲量は、まいわしが 223,966t で全国第 1 位、さば類が 63,223t で全国第 1 位です。

② 沿岸漁業

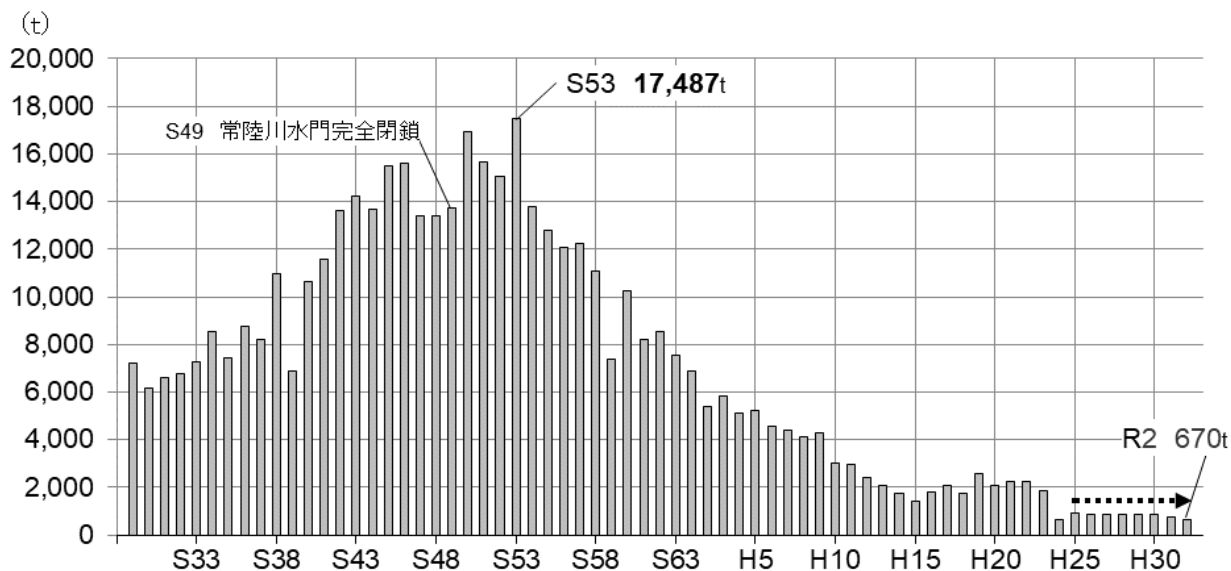
回遊性魚種が漁獲対象の船びき網は、本県沿岸漁業の基幹漁業であり、漁獲対象であるしらす等の好不漁により漁獲量が大きく変動します。本県は、沿岸漁業経営の安定化と消費者ニーズに応えるため、ひらめ、あわび等の人工種苗の大量生産・放流を実施しています。これらの魚種の漁獲量は比較的安定しており、船びき網の好不漁による収入の変動を緩和する重要な収入源です。

(b) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

① 霞ヶ浦北浦の漁業

霞ヶ浦北浦は古くから漁業が盛んで、わかさぎ、しらうお、えび等が漁獲されています。漁獲量は、昭和 53 年の 1.7 万 t をピークに減少傾向が続いたところ、近年は 900t 未満で横ばいに推移しており、令和 2 年の漁獲量は 670t です。

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量の推移

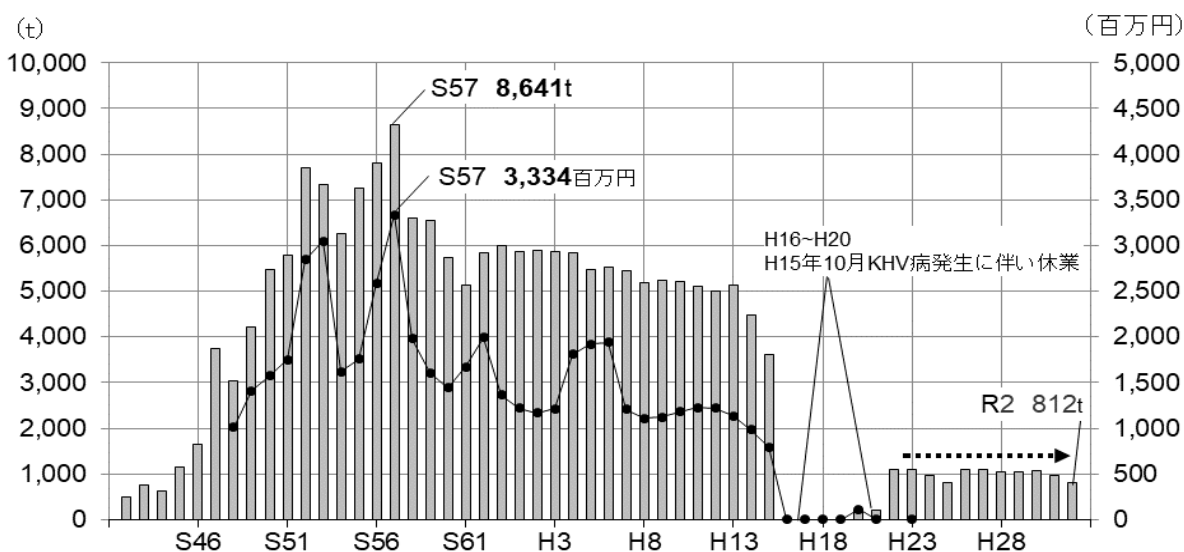


(資料：漁業・養殖業生産統計)

② 霞ヶ浦北浦の養殖業

昭和 40 年代当初、霞ヶ浦北浦に導入されたこいの小割式養殖業は、陸上池や他の湖沼よりもコスト面等で有利であったことから急速に普及し、年間収獲量約 5,000t 超の全国一の産地となりました。平成 15 年 10 月のコイヘルペスウイルス病発生により、こい養殖業は一時休業を余儀なくされましたが、病気に耐性を持つこいの生産技術の開発等により、平成 21 年 4 月に生産を再開しました。近年は 1,000t 前後で横ばいに推移しており、令和 2 年のこい養殖収獲量は 812t で、全国第 1 位です。

◇ 霞ヶ浦北浦のこい養殖収獲量及び生産金額の推移



(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27 以降のこい養殖収獲量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量およびこい養殖収獲量 単位：t

	H2	H12	H29	H30	R1	R2	R2 全国	R2 シェア
漁業合計	5,405	2,416	886	849	729	670	21,745	3.1%
わかさぎ	463	51	92	98	119	73	935	7.8%
しらうお	110	95	211	176	161	187	507	36.9%
えび類	1,924	1,097	221	253	133	87	198	43.9%
こい養殖	5,895	5,001	1,040	1,063	970	812	2,247	36.1%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27 以降のこい養殖収獲量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

③ 内水面の漁業・養殖業

漁業の主要漁獲対象は、那珂川、久慈川のあゆや、那珂川（涸沼川）、涸沼のしじみです。養殖業は、県北地域を中心ににじます、やまめ等が養殖されています。令和 2 年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）の漁獲量は 2,438t で、全国第 4 位です。令和 2 年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収獲量は 920t で、全国第 9 位です。

(c) 水産加工業

北茨城市、ひたちなか市、大洗町、神栖市を中心に塩干、煮干、蒸しだこ、冷凍品等多様な加工品が生産されています。那珂湊（ひたちなか市）・大洗地区では、昭和 40 年代から輸入原料を用いた加工が行われるようになり、蒸しだこ、干しししゃも、ほっけ開き干し等の全国有数の生産地となっています。また近年は、神栖市を中心に冷凍さば等の輸出が増えています。霞ヶ浦北浦周辺は、わかさぎ、しらうお、はぜ、えび等の佃煮、煮干、焼き物等の加工が盛んで、全国有数の佃煮産地です。令和元年の水産加工品生産量は 171,545t で、全国第 4 位です。

◇ 本県の水産加工品生産量 単位：t

	H2	H12	H29	H30	R1	R2	R2 全国	R2 シェア
合計※1, 2	322,436	158,080	196,573	172,312	171,545	149,886	2,547,954	5.9%
しらす干し	1,738	2,377	2,024	2,226	2,476	2,823	30,859	9.1%
佃煮類	3,747	3,587	1,411	-※3	-※3	-※3	-※3	-※3

(資料：水産加工統計)

※1 水産加工品生産量合計には、缶詰、魚油、飼肥を含まない

※2 合計数値は、R2 から統計方法が品目毎の「主要県調査」となったことで公表されなくなったため、品目毎の数値を足し上げることで算出することとした。(R1 以前の統計よりも過少)

※3 平成 30 年及び令和元年は「佃煮類」の項目がなく集計できないため、データなしとした

(3) 経営体及び漁業就業者の動き

本県の海面漁業就業者数は、水産資源の減少や魚価低迷による不安定な収入や、漁業未経験者が就業しにくい環境にあることから、減少傾向にあります。平成 30 年の本県海面漁業就業者数に占める 60 歳以上の男性は 33.3%で、担い手の確保が課題となっています。

◇ 本県海面漁業経営体数、漁業就業者数、動力漁船数（平成 30 年）

	茨城県	全国
海面経営体（経営体）※1	343	79,067
海面漁業就業者（人）※1	1,194	151,701
海水漁業動力漁船（隻）※2	910	218,720

(資料：※1 2018 年漁業センサス、※2 漁船統計表)

◇ 本県海面漁業年齢別・男女別就業者数（平成 30 年） 単位：人

	人数	合計に 占める割合
合計	1,194	
男	1,132	94.8%
15～24 歳	76	6.4%
25～39 歳	260	21.8%
40～59 歳	398	33.3%
60 歳以上	398	33.3%
女	62	5.2%

（資料：2018 年漁業センサス）

（4）栽培漁業

本県沿岸資源の維持増大を図るため、茨城県栽培漁業センターにおいてひらめやあわび等の稚魚・稚貝を生産し、漁業者等により放流が行われています。近年の放流実績は、ひらめ約 50～100 万尾（全長 10cm サイズ）、あわび約 24～30 万個（殻長 30～40mm サイズ）で、漁獲量の安定などの効果が見られています。

（5）漁港等の漁業生産基地

本県には 24 の漁港があり、中でも第 3 種漁港である平潟・大津・久慈・那珂湊・波崎漁港は、漁業生産、流通・加工の基地としてその機能を発揮しています。漁港については、長期計画に基づく整備を進めるとともに、施設の長寿命化対策を推進しています。また、この他に大洗町や鹿嶋市等の 4 港湾も漁業生産活動の基地となっています。

◇ 本県の代表的な魚介類

★プライドフィッシュ指定…地元漁師が自信を持って勧める魚（茨城沿海地区漁連）

茨城常磐のまさば★ 	・ 10～3 月下旬が茨城県沖の主な漁期 ・ 令和 2 年の漁獲量は 63,223t で、全国第 1 位（さば類） ・ 11～12 月に北海道や三陸でたっぷり脂を蓄えたさばが茨城県沖まで南下したところを漁獲する ・ 分厚い身と質の良さ、豊かな旨味で市場からの支持が絶大
茨城のしらす★ 	・ 4～7 月（春しらす）と 8～11 月（秋しらす）が旬 ・ 令和 2 年の漁獲量は 4,645t で、全国第 4 位 ・ 県内各所において、船びき網で漁獲される ・ 主にしらす干しに加工されるほか、近年は生しらす丼や生食用凍結しらす「海の輝き」を売り出している
鹿島灘はまぐり★ 	・ 春が旬 「県の春のさかな」に指定 ・ 主に大洗地区～波崎地区において貝桁網で漁獲される ・ 酒蒸、潮汁、焼きはまぐりなど濃厚な旨みが楽しめる
かつお 	・ 夏～秋が旬 「県の夏のさかな」に指定 ・ 県内各所において、沿岸かつお釣り等で漁獲される ・ 水戸市は全国トップクラスの消費量
茨城のひらめ★ 	・ 秋～冬が旬 「県のさかな」「県の秋のさかな」に指定 ・ 県内各所において、刺し網や底びき網等で漁獲される ・ 「常磐もの」ブランドの代表格
茨城あんこう★ 	・ 冬が旬 「県の冬のさかな」に指定 ・ 7～8 月を除く通年水揚げがあり、主に底びき網で漁獲される ・ 平潟や水戸の名物「あんこう鍋」は全国的にも有名で「茨城あんこう」としてブランド化されている
わかさぎ 	・ 7～12 月が主な漁期 「県の淡水のさかな」に指定 ・ 霞ヶ浦北浦において、トロール漁で漁獲される ・ 佃煮、甘露煮、煮干しなどの加工品のほか、近年は鮮魚販売も積極的に行われている
ひぬまやまとしじみ 	・ 6～7 月（土用しじみ）と 12～1 月（寒しじみ）が旬 ・ 涸沼や涸沼川において、しじみかきで通年漁獲される

参考) いばらきの地魚取扱店

	- 茨城県内の港で水揚げされた魚介類「いばらきの地魚」を積極的に PR するため、「いばらきの地魚」を買うことができる店、食べることができる店として、県内にある小売店・飲食店・旅館などのうち次のいずれかの基準を満たす店舗を認証する制度 ✓ 年間の魚介類取扱数量のうち、いばらきの地魚が3割以上を占める ✓ 販売の場合（小売店など）いばらきの地魚を販売する常設の専用スペースを設けている ✓ 料理や飲食の場合（飲食店・宿泊業）いばらきの地魚を主食材としたメニューを常時3種類以上提供している - 令和4年3月現在 163店認証 (小売店 116、飲食店 46、宿泊業 11、同一店の複数登録あり)
---	---

参考) 茨城県の漁港および港湾

